

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4071000865
法人名	株式会社 エレガンス福岡
事業所名	グループホーム愛あい本社 (ユニット名 2F・3F )
所在地	福岡市中央区福浜2-1-5
自己評価作成日	平成29年11月2日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/40/index.php">http://www.kaigokensaku.jp/40/index.php</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人福岡県介護福祉士会
所在地	福岡市博多区博多駅前中央街7-1シック博多駅前ビル5F
訪問調査日	平成29年12月1日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

都心より近く西公園、大濠公園等の傍であり自然環境も整い図書館、美術館等の公共施設も充実しています。大型団地に隣接し商店街も徒歩圏内にあり保育園、幼稚園、小、中学校、専門学校との交流や地域とも密接に関わりながら日常生活が営まれています。医療施設を改装し自宅として使用していた3階部分は家庭的な雰囲気の中御入居者様と家事全般等を共に行い、余暇活動もお一人おひとりに合わせ多種多様に対応しています。関連機関との連携を図りご本人様、ご家族様のおもいを叶えられ、自分らしく暮らせるよう、介護計画を作成し寄り添った介護を実践しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所前には路線バスの停留所があり、近くには都市高速ランプや地下鉄とアクセスの良い場所にある。徒歩圏内には市の社会福祉協議会(ふくふくプラザ)や、五重塔のあるお寺、隣接するコンビニ等生活しやすい環境である。事業所からは、大濠公園の花火大会も望め、3階の中庭では屋外カフェも楽しめる。先日リフォームが行われ、モダンで明るい雰囲気である。1階にはウォーターベットや機能訓練設備が整っており介護予防にも力を入れている。職員は、家族や家庭に近い環境を心がけ、利用者が元気に明るく日々過ごせるよう個々に合わせたケアをしている。他で断られた経緯のある方も、ここの生活では自分らしさを取り戻した生活が送れている。近隣の外出時は、地域の方との立ち話に花が咲き地域に根差した生活が行われている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,21)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
61 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	企業理念に地域への貢献を掲げ、ホーム独自の理念を目的のつくところに提示してあり、スタッフ間で共有しご入居者と接しながら実践しております。	企業理念とは別に、事業所の理念「地域と共に笑顔・尊敬・感謝の気持ちで寄り添います」を掲げ、笑い声の絶えないアットホームな環境を実践している。職員には入職オリエンテーションでしっかり伝え、日々のケアにも振り返られるようリビングに掲げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	校区内の防災訓練や公民館活動、学園祭等の地域活動への参加や日々の買い物や散歩へ同行し地域との関わりを絶やす事無く行っております。	数名ずつ散歩へ出かけ、団地の花壇を眺めながら自然な形で地域の方々との触れ合いが毎日行われている。校区の夏祭りや、小学校の運動会、近隣にある短大の実習受け入れ、スーパーへの買い物等日常的に交流がある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	介護実習生の受け入れやデイサービス利用者等積極てきに交流を図り、またホーム内の見学等も行い認知症や介護全般について相談等取り組んでいます。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	各関係機関へ2ヶ月毎に参加を呼び掛け現状報告や意見交換等を行っています。外部評価についても事前の報告や御家族へのアンケート協力を仰ぎ結果の報告をして改善点等の話し合いを行いサービス向上にいかしています。	併設のデイサービスと合同で運営推進会議を行い、自治会より地域の高齢化の報告を受け、事業所から現状と取り組みを報告している。地域のかかりつけ薬局より、入退院等で派生する残薬の管理や薬のコスト等の情報をもらい、利用者負担軽減や重複薬削減に取り組んでいる。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村の福祉担当者や社会福祉協議会と常に連絡を取り合い地域包括支援センターへも実情の相談がいつでも行えるよう積極的に協力関係を築いています。	市の生活保護会議に参加したり、敬老会には市から参加してもらう等、双方の行き来がある。また、地域の港まつりでは福祉ブースへの出店依頼を受けたり、公民館での勉強会を開催する等協力している。事業所の入居状況は随時報告している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービスにおける禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	「身体拘束ゼロ」を掲げより良いケアに取り組む相談窓口の紹介を行っていますが、やむを得ず身体拘束が必要な場合はご本人、ご家族へ説明を行い書面において同意を得ています。	退院直後、転倒防止の為にサイドレールを一時的に設置したことはあるが、現在はしていない。外部研修の参加職員や管理者から身体拘束全般はもとより、言葉による拘束についても勉強会が行われている。1階にあるデイサービスの送迎終了後は正面玄関のみ施錠するが、裏口は開いており、出かけた時に出かけられる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修を受講した職員がスタッフ会議等で報告し事業所全体で学べる機会を持ち虐待と思われる行為に関しては会議やミーティング等利用して勉強の場を持ち職員一同理解を深めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修等の報告会実施や制度利用中の御入居者においては関係機関と方向性等話し合い全職員が把握し支援しています。	日常生活自立支援事業を利用している利用者があり、ふくふくプラザで開催された弁護士の権利擁護講演にも参加している。問い合わせがあれば家族への説明はできるが、啓発のためのポスターやパンフレットはリフォームを行う際撤去し、設置されていない。	家庭を意識した生活の空間ではあるが、利用者、家族が容易に情報が得られるよう必要なパンフレットや案内等の再設置についての検討を期待したい。
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	書面に沿って各項目毎に理解納得できているか確認をとり不安や疑問点についても解り易く説明しています。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	御入居者には日常の会話や表情を観察しご家族に対しては来所時や電話連絡の際にご様子をお伝えしご意見、ご要望の確認をとり全職員で把握しています。玄関に御意見箱を設置しており、外部相談窓口の紹介もこなっております。	家族の訪問時には意見や要望を伺うようにしている。遠方で訪問のない家族へも不定期ではあるが、電話で意見などを聞くようにしている。職員の身だしなみについて、外出時と事業所内での容姿のあり方など具体的に意見をもらうこともある。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的、必要時に面談の機会を設け意見や提案、悩みを聞いています。職員控室に目安箱も置かれスタッフ会議等で取り上げ全職員で検討しています。」	リフォームの際、職員の意見が反映され、風呂場の仕切りや暖房の設置がなされ、冬場でもすぐ温まる環境が整えられている。職員が希望する研修は、人員充足状況をみながらできる限り参加できるようにしている。勉強会や外部研修報告書で情報共有し、ケアの質にばらつきが無いようにしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の意見の聴取をこまめに行い適宜職場環境の改善につとめています。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮し生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	法人の人事担当と管理者で面接を行い理念の共感や介護に臨む姿勢を重視し採用に当たっています。入社時のオリエンテーションや入社後は研修受講案内を随時行い希望や能力に応じ促す等資格取得に対しては職場の環境整備を行い意欲的に取り組めるよう配慮しています。	職員の家庭環境に応じてシフトの配慮がなされている。健康状態に問題がなければ性別年齢問わず、長く勤められる環境がある。余裕のない人員であってもチームワークが取れており、研修参加や外部会議の出席で良い刺激を受け勤務に反映されている。職員の異動はほとんどない。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	外部研修や校区人権尊重推進協議会主催研修へ参加、報告会において全職員で周知し積極的に取り組んでいます。	12月は人権週間でもあり、これから開催される外部研修へも参加予定である。社内研修もなされ、ケアの中で繰り返し広げられる日常会話でも、馴れ合いで人権を侵すことがないように利用者を尊重するケアを実践している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各種勉強会への参加を募ったり、資格取得の為に勉強会をおこなっております。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内外での会議に参加し交流を図っています。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	面談、見学や体験入居を通してご本人の意向の確認を行い納得できるよう体制を整え安心してサービスが受けられる関係づくりに努めています。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面談、見学時の情報収集においてご家族の思いなど傾聴し受容するように努めています。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人、ご家族双方の要望を基にその時点で何が必要かを見極め法人全体で独自のサービス対応や関係機関との連携を図っています。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	御入居者と職員は同じ時間を共有しこれまでの暮らしの中で工夫されてこられた事を教えて頂きながら支え合う関係を築いています。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	これまでの経過に配慮しつつご本人の生活情報交換しながら方向性を同じく共に支援して行く対等な関係を築いています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会時間の定め等は無く馴染みの人や行きつけの場所への出入りにも規制は設けておらず交流の継続を支援しています。	馴染みの関係はアセスメントで把握している。近隣にある団地や、以前の居住地から友人が訪ねて来ることもあり、居心地の良いよう配慮している。団地に住む友人を訪ねるなど、近くへは職員が連れて行き、家族同伴の場合は、門限などは設けておらず、関係を優先してもらっている。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご入居者同士の関係性に配慮しながら共に助け合い、支え合って楽しく暮らせる様努めています。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用中に培われた関係性が継続出来る様その後も面会や相談等に応じています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	全職員がお一人おひとりの思いや意向について関心を持ち把握しようと努め希望等の表現が困難な方に対してもご本人の立場になって関係者と検討会を開催しています。	日々の会話や表情などから意向を把握している。入浴時、寛いだ雰囲気の中で思いを聞くこともあり、ケアプランに反映されている。困難な場合には態度や素振りなどから気持ちを推しはかったり、関係者の情報などから希望や意向を汲みとったり本人本位に検討している。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	プライバシーに配慮しご本人、ご家族との関係を築きながらこれまでの暮らし方を把握しサービス利用に関しては前担当者等からの情報も確認するよう努めています。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の状態をお一人おひとり把握し御入居者を総合的に見つけながら残存能力の発見に努めています。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人が快適に暮らせる為の課題やケアの在り方について日々検討し何が必要か関係機関と共に話しあって個別の計画を作成しています。	毎朝の申し送り時に利用者の状態について職員間で共有し、月一度のスタッフ会議でプランについて検討している。家族には訪問時や電話で意向を確認し、また、訪問診療時に主治医に相談したりアドバイスを貰っている。毎月モニタリングを実施し、利用者の状況に応じて随時プランを変更するなど、現状に即した介護計画を作成している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々のご様子や個別に実践したケアの結果を経過記録に気づきやケアの工夫をケアカンファへ記入し全職員で情報を共有し検討しながら介護計画の見直しに活用しています。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人、ご家族と情報を共有しながら日々変化する状況や要望に応じて必要なサービスを法人内外の事業所への協力を得ながら柔軟に対応できるように取り組んでいます。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源の情報収集に努めお一人おひとりの思いや身体の状態を尊重し地域行事への参加、公民館利用が行えるよう支援しています。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人、ご家族の馴染みの医師による継続的な受診で納得が得られる様支援しています。状況、希望に応じて協力医療機関との連携を図り訪問診療や訪問歯科診療も利用できます。	2週間に一度往診を行う事業所協力医はあるが、入居時に希望するかかりつけ医を本人・家族に確認している。往診外のかかりつけ医の受診には職員が同行支援している。他科受診は家族同行の受診となっているが、困難な場合は職員が代行している。結果については家族と情報を共有し、適切な医療が受けられるように支援している。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	かかりつけ医の看護師や法人内の訪問看護職員とも連携を図りお一人おひとりの状態の変化に対する判断や対処法を気軽に職員が相談できる体制がととのっています。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時にはご本人に関する情報提供を行い入院中の面会等で状況の把握に努めご本人の負担軽減の為御家族や医療関係者と連携を図っていきます。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	かかりつけ医の健康管理において現状を伝えご本人、御家族の意向を把握し安心安全が確保できるか全職員で検討を重ね関係機関との連携体制整備に取り組んでいます。	今までに看取りをした経験がある。入居時に事業所としてできるケアについて説明し、利用者の状況に応じて段階的に話し合いを行っている。医療面については医師から説明を行い、家族や職員、医療関係者との連携も取れている。希望により宿泊や食事の提供が可能である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時マニュアルが整備され適宜全職員での勉強会や検討会を開催し実践力を身に付けています。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	非常災害時マニュアルや緊急連絡網が整備され年2回行事計画に避難訓練を予定し状況の変化を加え実施しています。法人全体で避難方法や経路の把握に努め地域の防災訓練にも参加し協力体制に取り組んでいます。	年2回、昼を想定し、利用者・職員・消防署員の参加のもと避難訓練を実施している。火災・震災・風水害のマニュアルは作成されている。備蓄や非常持ち出し袋などの準備が無く、また、地域住民の参加にまで至っていない。	有事の際には地域との連携が大切であり、火災のみならず他の災害についても昼夜を想定した訓練を実施することが望ましい。また、備蓄なども早急に準備されることを期待したい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	御入居者の尊厳と権利を守る為個人の誇りやプライバシーの確保に法人全体で確認し合い改善に努めています。	職員は利用者を人生の先輩として尊重し日々関わっている。トイレ誘導の際には耳元で声掛けしたり、さりげなく対応するなどしている。記録は他の利用者や訪問者の目に触れないように配慮し、記録物は事務室に保管している。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人の希望や願いを感じ取れる様に表情や反応を日々観察し自分らしく納得のいく暮らしが送れる様接しています。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	行事がある時参加の希望を確認し個人の生活リズムや思いを大切に受け止め日々の暮らしがその方らしく送れる様支援しています。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	日々気持ち良く過ごせる様に好みや意向を確認しながら个性的におしゃれが楽しめる様支援しています。2ヶ月に一度は訪問理美容が利用できます。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立作成において好みを伺い入居者の状態に適した調理をしています。食事はスタッフも一緒に談笑しながら召し上がっておられ、お手伝い出来る事には参加して頂いております。	利用者が水やりをした野菜が食卓に彩りを添えることもある。箸、茶わん、湯飲みは個人の好みのもを使い、職員と利用者が同じテーブルを囲んで楽しく会話をしながら食事をしている。下ごしらえや下膳、テーブルを拭くなど利用者一人ひとりの持てる力を活かしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	御入居者と職員が提案した献立を担当職員がバランスを考慮したメニューで個人の状態や嗜好品、摂取パターンに合わせて提供し水分、食事摂取量は毎食後に記録、把握しています。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の声掛け、誘導を行い状態の確認をし必要性、希望あれば歯科往診促しています。義歯の方は毎晩つけ置き洗浄を行っています。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンの把握と記録を行いお一人おひとりの状態に合わせ声掛け、誘導し羞恥心や能力に配慮しながら支援しています。	排泄パターンを把握し昼夜を問わないトイレ誘導によって、紙おむつからリハビリパンツとパット併用に変更する等、排泄の自立支援とオムツ削減に取り組んでいる。失敗した時には、周りに聞こえないようにさりげなく誘導している。トイレ内には温かいタオルが準備され、朝や就寝前、排便時に清拭し気持ちよく過ごせるよう支援している。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	お一人おひとりのパターン把握と記録を行い飲食物の提供を考慮すると共に状態に合わせ体操等で不快感の軽減が出来る様努めお薬でのコントロールは最小限になるよう取り組んでいます。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	毎日入浴の準備を行いお一人おひとりの体調や希望に合わせて声かけに工夫しながら安全面にも配慮して楽しく入浴出来る様支援しています。	毎日午後1時から3時半位までの間に入浴している。利用者専用のシャンプーを使用したり、一番湯での入浴や湯加減など利用者の希望に沿うようにしている。また、寛いだ雰囲気の中で一緒に歌を唄ったり、会話を楽しんだりしている。入浴を拒まれる場合は対応者を変えたりして個々に沿った支援をしている。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	今までの生活習慣を考慮し個人の睡眠リズムを大切に間わりながら安眠や休息出来る様支援しています。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬に関するミスの無いように処方されるお薬について全職員で把握し心身の変化に配慮しながら御家族や医師、薬剤師と連携を図っています。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個人の生活史や出来る能力に合わせた活動へ参加でき職員と共に役割りを果たし充実した日々が送れる様に支援しています。		
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望や体調に配慮し日々の買い物や散歩、季節毎の行事を計画し御家族や地域の方々と触れ合う機会を設け外出しています。	天気の良い日には数人で近隣を散歩し、車いすの利用者には、個別で出かけている。近くの団地やお寺に行き、季節の花を楽しんだり、友人宅への訪問を希望する利用者には同行している。テラスでおやつを食べながら外気浴を楽しんだり、車いすの利用者も一緒にドライブに行き弁当を食べるなど外出を楽しんでいる。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	月々一定の金額を個別に管理し希望に応じ買い物等同行し、ご家族と協議の上ご本人がお金の所持が出来る様支援しています。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人の希望により遠方に住まれる御家族様とも連絡を交せ居室でもゆっくりお話出来る様携帯電話を設置し季節の挨拶が出来るようにはがきの準備もあります。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	御入居者等の作品や写真、季節に合わせた飾り付け、好みの音楽等生活感の得られる共有スペースでお一人おひとりがその方らしく過ごせる工夫を行っています。	台所から調理の匂いや準備する音が聞こえる。リビングの壁に立てかけられたボードにのみ外出時の利用者の写真をかざっている。訪問時は季節柄、小さなクリスマスツリーも飾っていた。全体として事業所内はモダンな作りではあるが生活感や季節感が十分とはいえない。	共用空間であっても、利用者にとって馴染みの物を取り入れたり、一人ひとりの思いを大切にしながら、居心地のよい共用空間のあり方について今一度検討する機会を持つことを期待したい。
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	サンルームやソファ等を配置してあり一人でも好きな時に外を眺めたり歌を口ずさんだりして不安やストレスが軽減できる空間の提供を行っています。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室にはご本人がずっと使用していた馴染みのある家具や装飾品を持ち込まれ他者を気にする事無くリラックスして過ごせるよう工夫しています。	居室は明るく、仏壇やテレビ、使い慣れた筆筒などが持ち込まれている。また、利用者の手作りした茶碗が飾られるなど居心地良く過ごせるように工夫をしている。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	中庭で草花の育成や洗濯物を干せる様整備しお一人おひとりが自発的かつ安全に移動出来る様手摺り、スロープも整備されています。		